

## 言語活動の効果的な指導方法

国語科 内園 美花

### 1 はじめに

高等学校国語では、本年度から新学習指導要領が年次進行で実施されている。その1番の大きな特徴は「言語活動の充実」である。

平成20年中央教育審議会答申では、言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが重要であるとしている。このような観点から、新学習指導要領においては、言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を充実することとしている。その中でも、実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語が担う役割は大きい。

しかし、言語活動を取り上げる際には、それが目標としている言語能力を育成するのにふさわしい学習活動かどうかを十分に吟味する必要がある。ややもすると、言語活動のための授業になってしまう危険性もはらんでいる。そこで、思考力、判断力、表現力等に係るどのような力を育むために、それにふさわしいどのような言語活動を、どのような場面で行うのか等を研究し、効果的な指導方法を模索したい。

### 2 研究経過

#### ① 生徒の実態把握

まず、生徒の言語に対する意識調査を行った。以下がアンケート項目と、その結果である。

表1 生徒の意識調査 (1年普通科46名、有効回答100% 欠席0名)

番号	質問項目	回答形式
①	「話すこと」は好きですか。	※4択・そう考える理由の自由記述
②	「聞くこと」は好きですか。	〃
③	「書くこと」は好きですか。	〃
④	「読むこと」は好きですか。	〃

※ 「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「全く思わない」の4択。

#### 【結果】

番号	とてもそう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	全く思わない
①	13(28.3%)	18(39.1%)	15(32.6%)	0
②	15(32.6%)	27(58.7%)	4(8.7%)	0

③	6 (13%)	12 (26%)	27 (58.7%)	1 (2.2%)
④	20 (43.5%)	19 (41.3%)	7 (15.2%)	0

- ・ 「話すこと」に関して、67.4%の生徒はそれほど抵抗を感じていない。しかし、残り 32.6%の生徒は抵抗を感じている。その理由として、「個人的に話すのは好きだが、大勢の前で話すのは好きではない。」「説明するのが下手で、緊張してしまう。」などが挙げられた。生徒たちは、論理的に説明したり、根拠をおさえて意見を発言したりすることには慣れていないようである。
- ・ 「聞くこと」に関して、91.3%の生徒が抵抗を感じていない。「新しいことを吸収できるから。」「いろんな意見やものの見方にふれることができるから。」「話し手のことをよく知ることができるから。」などがその理由であった。生徒たちは新しい情報を入手することに非常に敏感であるように感じた。
- ・ 「書くこと」に関して、60.9%の生徒が抵抗を感じている。しかも、書くことが全く好きだと思わない生徒が1人(2.2%)いた。その理由として「面倒くさい。」「話す方が楽。」「長い文章を書いていて、途中で自分が何を言いたいのか分からなくなる。」等が多く挙げられていた。スマートフォンやインターネット世代である生徒たちは、書く機会が少なく、論理的に筋道立てて文章を構成することが苦手である。
- ・ 「読むこと」に関して、84.8%の生徒が抵抗を感じていない。「自分の世界が広がるから。」「いろいろな表現の仕方や新しい言葉を知ることができるから。」「本に自分を感情移入して読むことが楽しい。」などの理由があった。「聞くこと」と同様に、新しい発見が出来る点に魅力を感じている生徒が多いように感じた。

#### 【分析と課題】

- ・ 生徒は、情報を収集することには抵抗を感じていない。これは一概には言えないが、生徒たちがスマートフォン・インターネット世代であることに起因するのではないだろうか。生徒たちは、瞬時に情報をキャッチし、ブログやフェイスブックなどで広く浅い人間関係を構築している。日常的に幅広い情報を収集しているため、聞くことや読むことなどの情報をインプットすることには抵抗がないのであろう。一方で、論理的に自分の考えをまとめたり、根拠をおさえて説明したりすることに苦手意識を感じている。友人と世間話をするだけならまだいいのかもしれないが、過剰な情報を分析・考察し、他者に的確にわかりやすく伝える力が弱い。そこで、他の生徒との話し合いや与えられた情報を深く読みとる作業、自分の考えを表現する等の言語活動を取り入れた授業を展開し、生徒の言語能力（話す・聞く・書く・読む）を高めていく試みを実践していきたい。

#### ② 授業実践等

- 「芥川」『伊勢物語』（全5時間）

『伊勢物語』は、平安時代の歌物語である。和歌が散文の内容と響き合い、物語の世界をより

深める働きをもった文章である。「芥川」では、幸せの絶頂から突然、最愛の女性を失ってしまう男性の悲しみが、巧みに表現されている。物語の登場人物たちが、さまざまな出来事の中でどのように行動し、どのようなことを感じたのか、そして古人はこうした出会いや別れの場面をどのように描いてきたのか、じっくりと味わわせたいと考えた。

《学習目標》（育成を目指したい国語の能力）

文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。

（新学習指導要領「国語総合」2内容C(1)ウ）

《指導計画》

- 1 時間目 … 歌物語や在原業平についての説明。第1段落の内容理解。
- 2 時間目 … 第2段落の内容理解。
- 3～4 時間目 … 「芥川」の脚本作成。
- 5 時間目 … 劇（脚本）を発表。（本時）

《取り上げる言語活動》

登場人物の性格や心理の動きを、和歌も手がかりにして深く読み取り、劇（脚本）にする。

《所見》

まず、個人で登場人物の心情を考えさせ、次にグループで脚本を作成させた。生徒は、「男」が「女」を連れ出す際に意気込んでいることが分かるセリフや、鬼が「女」を食べる際に喜んでいるセリフ等を考え出していた。最後の和歌に「男」の気持ちが集約されているが、自分の愚かな行為を嘆くセリフや後悔している様子が伝わるように脚本を完成させていた。

5～6人のグループで劇をしたが、間をとって観客に余韻を残したり、体全身を使って登場人物の気持ちを表現したりしていた。行間に描かれている登場人物の心情がより立体的に浮かび上がったのではないだろうか。

#### ○「鶏鳴狗盗」『十八史略』

『十八史略』は、太古より宋末までの歴史を簡略に記した書物である。当時の政治や社会のありさまを鮮明に描写した作品によって、中国の歴史に親しみ、時代に処した人々の人柄や生き方を学ぶことは、高等学校の漢文学習の重要な要素である。「鶏鳴狗盗」では、戦国時代の社会の一面に触れ、その中に生きた孟嘗君やその食客たちの行動に理解を深め、人間の生き方を探らせたいと考えた。

《学習目標》（育成を目指したい国語の能力）

文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。

（新学習指導要領「国語総合」2内容C(1)ウ）

《指導計画》

- 1 時間目 … 『十八史略』や曾先之、時代背景の説明。本文前半の内容理解。
- 2～3 時間目 … 本文前半・後半の内容理解。
- 4 時間目 … 孟嘗君の人柄について考える。（本時）

### 《取り上げる言語活動》

登場人物の言動をもとに、その躍動感あふれる豊かな人間性について話し合う。

### 《所見》

本文全体のあらすじを確認した後、本文中から孟嘗君の人物像を表す言動を抜き出し、そこからうかがえる孟嘗君の人物像について考えた。その際、ワークシートを用いた。感覚的に発言してしまう生徒が少なくないため、根拠をおさえて意見を述べるよう指示し、グループで話し合う言語活動を行った。生徒は、「統率力がある。」や「賢明で器が大きい。」等と発表していた。しかし、一方で「心配性である。」などの意見も出た。読みが浅くなってしまった原因としては、当時の時代背景があまりぴんときていなかったためだと考えられる。国同士がお互いに策略を練りながら、自国の強化に励んでいたことが理解できていなかったようだった。

## ○「本のPOPを作ろう」

POPとは、商品の近くに掲げて、客が買いたいという気持ちにさせるための広告のことである。書店などでは、本の内容を魅力的に紹介するPOPが、数多く掲げられている。本のPOP作りを通して、適切な題材を選んだり、相手意識をもって文章を書いたりする力を育成したい。また、本校の図書室利用がなかなか伸び悩んでいることもあり、生徒の読書への興味を喚起したいと考えた。

《学習目標》（育成を目指したい国語の能力）

相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。

（新学習指導要領「国語総合」2内容B(1)ア）

### 《指導計画》

- 1 時間目 …図書室で本を選ぶ。
- 2 時間目 …本のPOPを作る。
- 3 時間目 …本とPOPを紹介する会を開く。（本時）

### 《取り上げる言語活動》

出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書く。

### 《所見》

本校の生徒は、朝読書の状況も良く、休み時間に席に座って読書をしている様子をよく見かける。しかし、なかなか図書室に行く機会がなかったため、この授業を思い立った。教室を飛び出して図書室での活動ということもあってか、生徒は非常に積極的に活動していた。本を選んだ後、POPの書き方を説明し、キャッチコピーなどの説明をした。生徒たちは、色鉛筆やクレヨンを使って注目してほしいところを強調したり、紙を立体的に使ったりと、読みたくなるような工夫をしていた。POPが完成した後は、本とPOP（無記名）を一斉に並べて、どの本が一番読みたくなったかを投票させた。授業後、紹介した本を他のクラスメートが借りて帰る様子もうかがえ、嬉しい余波であった。

## ○ 学年朝礼時のスピーチ

本校では、学年朝礼時に生徒のスピーチを行っている。「書く」活動や「話す」活動を通して、生徒の言語活動が豊かなものになることを目的としており、スピーチ後は南日本新聞「若い目」に投稿している。

### 《指導計画》

事前 …何についてスピーチするか考える。

原稿用紙にまとめる。

スピーチの練習をする。

学年朝礼 …スピーチをする。

### 《取り上げる言語活動》

相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。

状況に応じた話題を選んでスピーチをする。

### 《所見》

生徒は人前で話すことに抵抗を感じているようである。しかし、就職試験や推薦入試でも面接等があることを踏まえ、「相手を意識して」話をする事が出来るように取り組みを考えた。「何を伝えたいのか。」「どう伝えたいのか。」など生徒と話をし、効果的な文章構成を考えさせた。文章ができあがったら、その後は発表の練習をした。声の大きさ、表情、間の取り方などに気をつけながらスピーチをさせた。本番は、原稿を見ずに言えるくらいにまでなっていた。また、スピーチ後に南日本新聞の「若い目」に投稿し掲載された生徒はさらに自信をつけ、喜んでいた姿が印象的だった。

## ○ 小論文指導

本校の進路先状況は、就職から国公立大学進学まで幅広い。国公立大学のAO・推薦入試には小論文が課されている学校が多く、国語科として小論文指導に携わってきた。小論文では、ある事柄について、自分の考え（意見）を読み手が納得するように筋道立てて説明することが求められる。そのためには、自分の意見を具体的に述べるとともに、「なぜそう考えるのか」という原因・理由を説明することで、自分の意見を支えていくことが大切である。このように、論理的に考えて述べる事が要求される小論文には、書き手が課題についてどのように考えているかがよく表れる。そこで、小論文指導を通して、「書く」ことの向上を図ろうと試みた。

### 《指導計画》

事前 …総合学習の時間を使い、小論文の知識を入れる。（原稿用紙の使い方、各分野の時事ネタ等をテキストで学習。）

社会科の先生方の協力のもと、毎週月曜日に「時事問題研究会」を実施。（新聞記事を取り上げて生徒同士で意見を述べ合い、考えを深める。）

小論文模試の実施。

### 《取り上げる言語活動》

出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書く。

#### 《所見》

自分の考え（意見）を読み手が納得するように説明するためには、主張したい事柄について、正確な知識や情報を持つておくことが求められる。根拠が無ければ、どんなにはっきりと意見を述べていても、相手を説得することはできない。テキストを用いて、時事ネタの概要やキーワードについて学習をしたが、1・2年次から系統的に学習を積ませておくことが大事であると感じた。また、総合学習の時間を使って、各クラスの担当の先生方に指導していただいたが、国語科以外の先生方から「自分たちも小論文の勉強になった。」という意見が多かった。学校全体として小論文指導が出来る体制作りの一助になったのではないだろうか。また、進路先に応じて問題を選択し模試を受けさせたが、入試を意識している生徒が多かったこともあり、積極的に取り組んでいた。

### 3 研究のまとめ

「言語活動の効果的な指導方法」というテーマで年間を通して研究をしてきたが、まだまだ効果的な指導方法を模索したいと思う。ただ留意しなければならないのは、思考力や判断力、表現力など、どのような力を育むために、それにふさわしいどのような言語活動を、どの場面で行うかを、教員が計画的に系統的に行うことだと考える。指導計画に明確に位置づけるなどして、さらに充実を図りたい。また、言語活動を取り上げる際には、それが目標としている言語能力を育成するのにふさわしい学習活動かどうかを十分に吟味し、「言語活動」のための授業にならないよう留意したい。

### 4 終わりに

今後も「言語活動の効果的な指導方法」を研究し続けたい。また、授業での学習活動のみならず、掃除時間や休み時間、部活動、廊下でのすれ違いなど多くの場面で教師が積極的にアプローチし、生徒の言語能力を高める機会を意識的に増やしていきたい。今回の研究で実践できなかった討論やICTの活用なども、発達段階に応じて行ってみたい。

### 5 参考文献等

- ・『朝倉国語教育講座 第2巻 読むことの教育』  
倉澤栄吉・野地潤家監修，小田迪夫・浜本純逸・松山雅子編集（朝倉書店）
- ・『朝倉国語教育講座 第3巻 話し言葉の教育』  
倉澤栄吉・野地潤家監修，白石寿文・山元悦子編集（朝倉書店）
- ・『朝倉国語教育講座 第4巻 書くことの教育』  
倉澤栄吉・野地潤家監修，中西一弘・森田信義・菅原稔編集（朝倉書店）